

1 犀川スキーバス事故三十九回忌法要が執り行われました

1985年1月28日早朝、スキー実習のため長野県内のスキー場に向かう本学学生と教職員を乗せたバス一台が長野市郊外の犀川に転落し、教員1名、1年生22名、バス乗務員2名の方が帰らぬ人となりました。この事故以降、本学では毎年、学内に追悼集会、現地に於いて祥月命日の法要を行い、二度とこのような事故が起こってはならないと継承を行っています。

今回の三十九回忌法要ではご遺族・ご友人をはじめ、本学教職員、学生らが現地での法要に参列し、亡くなられた方々を追悼しました。今回参列した学生2名は共に事故現場からほど近い、長野県北信地域出身の社会福祉学部4年生。今春、地元へUターン就職が決定していることもあり、卒業前に実際に現地を訪れたいとの思いで参加してくれました。在学中にも幾度か事故の状況や経緯を見聞き

していたものの、実際現場を訪れたことで当時の状況が鮮明になり、亡くなられた方々への思いが強くなったと話してくれました。また、ご遺族・ご友人の方々の思いを直に聞いたことから、自分たちもこの事故の事を後輩たちへしっかりと伝えていかなければならないと感じたそうです。参列した2名の学生から今回の法要の感想をお聞きしました。

竹澤真優さん(社会福祉学部子ども専修)

私は大学の災害ボランティアセンターに所属しています。大学4年間、コロナ禍で思うような支援活動が出来ていない中、「現地に行ったこともなく、当事者の方の声も聴いていない私が災害について語って良いのか」と戸惑いを覚えていました。ですが、昨年4月によく現地に赴き、当時被災した方から「若い世代がどんどん語り継いでほしい」との声をいただけ、災害や事故の継承の大切さを実感しました。卒業後、地元長野に戻ってきますが、日福の卒業生としてこの事故のことはずっと継承していきたいです。

南澤夏樹さん(社会福祉学部人間福祉専修)

自分が生まれ育った長野で日福の先輩たちがこのようなスキーバス事故に遭われたということを知り、入学してから知りました。在学中に何度か事故の話聞かせてもらいましたが、今回、実際に現地を目の前ですとすごく胸が痛くなりました。私も3月に卒業し、4月からは就職で長野県に戻ってきますが、今日感じた思いを決して忘れることなく、精一杯頑張っていきたいと思えます。後輩たちにもこの事故のことを語り継いでいきたいと思います。

写真：法要後の懇親会にて(写真右が竹澤さん、左が南澤さん)



2 合格者のつどい「にっぷく信州の輪」を開催しました

2023年3月12日、長野県松本市にある松本市勤労者福祉センターで4月から日本福祉大学へ入学予定の合格者向けイベントが開催されました。この日参加したのは、本年度実施した入学試験で合格した長野県在住の高校生と日本福祉大学の在学生・卒業生・松本オフィス職員の計20名。愛知県での新生活を安心してスムーズにスタートしてほしいと企画されたイベントです。当日は緊張した面持ちで会場に集った合格者の皆さんでしたが、さまざまなゲームを通して徐々に笑顔が見られるように。先輩への質問コーナーではアルバイト事情やひとり暮らしのノウハウ、大学での学びなどについての質問があり、在学生た

ちが一つ一つ丁寧に答える姿がありました。会を終える頃には先輩や同級生とお互いに連絡先を交換したり、「愛知県に行ったら会おうね」と約束する姿も見られました。松本オフィスも皆さんの大学生活をしっかりサポートしていきたい、思いを新たにできる機会となりました。新生活の準備で忙しい中、参加してくれた合格者の皆さん、サポートしてくれた在学生・卒業生の皆さん、ありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお祈りします。

参加者の皆さんから当日の感想を寄せていただきましたので、一部ご紹介いたします。

☆入学前に新1年生の人たちや先輩方と交流できて楽しかったです。知り合いを作るのができて、安心しました。先輩方も優しく色々な話が聞けて不安が減りました。

☆最初はとても緊張しましたが、ゲームを通してリラックスすることができ、自分のことをお話することができました。

☆緊張も解けるような楽しいイベントでした。不安なことや知りたいことが解消できたので参加して良かったです。



参加者の皆さんで記念撮影



各学部に分かれて先輩からアドバイスを受けた

「はじめてのふくし」を読んでみませんか

「ふくし」という言葉から、頭に浮かぶものは何でしょうか。ボランティア、お年寄りのお世話でしょうか。それとも耳の不自由な人たちのための手話通訳でしょうか。どれも間違っていないと思います。しかし、「ふくし」の世界や仕事はもっと広いのです。日本福祉大学が発行している「はじめてのふくし」はふくしの入門書。

ふくしに関心のある高校生だけでなく、中学・高校の授業や社会福祉施設での研修など幅広い場面でご利用いただいています。進学相談会等でお渡しできる他、WEBサイトにも掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。



役立つWEBサイトのご紹介

オフィス通信28号に登場している学生みなさんが在籍している各学部の特徴や学びの様子は大学HPからチェックできます。



入試やイベントの最新情報から、国家資格取得実績、就職率などを「受験生サイト」に掲載しています。進学相談会の日程も確認できます。



過去の入試結果データは入試ガイドをチェック！過去問題集を希望される方はサイトよりお申込みください。



日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL: 0263-31-9011 FAX: 0263-32-8018
MAIL: e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN: 火曜日～土曜日 9:30～17:30
CLOSE: 日曜日・月曜日・祝日

入試のご相談・面談をはじめ、ささいな事でも、お気軽にご相談ください！なお、留守にしている場合がありますので、来室される場合は事前にご連絡いただけると幸いです。

日本福祉大学地域オフィスが発信しているSNSもチェックしてください。



松本オフィスへのご質問・ご相談・来室の予約はこちらのフォームから



日本福祉大学 第28号 松本オフィス通信



- No.1 学生奮戦記
No.2 卒業生特集 「私たちの日福での4年間」
No.4 NIPPUKU NEWS

学生奮戦記

大学での4年間、学生時代にしかできない学びや経験があります。ときには、卒業単位にならない活動もありますが、その活動に挑戦することで得られる経験や知識、人脈は大きなものとなって皆さんの力になっていくはずですよ。

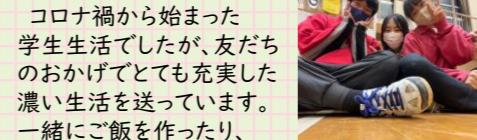
今しかできない学びを全力で

教育・心理学部心理学科3年 野村和夏さん(長野県長野吉田高等学校出身)



心理学を学ぶ面白さ

心理学科では多角的なアプローチで人々の心を紐解き、よりよい生き方や人との関わり方を学んでいきます。私たちが一消費者として捉え、心理状態を学ぶ消費者心理学というものがある。生物学的なヒトとして捉え、ホルモン状態や神経伝達から感情の生起などを学んでいく神経生理心理学というものもあります。堅苦しいイメージもありますが、他にも様々な分野があります。その中でも、私は「色彩心理学」という分野に興味をもち、卒業研究のテーマとしました。元々絵を描くことが好きで色については関心があったため、心理学がどのように関連していくのか興味を持ったことがきっかけでした。研究内容は、個人の性格の特性と好きな色の関連と影響についてです。人によって好きな色は異なりますが、それが色を好む理由や個人の自己認識によって異なってくるのではないかと仮説を立て、調査を行いました。現在はまだ分析中ですが、面白いテーマであると思っています。このように心理学は幅広く、私たちの生活にとっても密着した学問なのです。



コロナ禍から始まった学生生活でしたが、友だちのおかげでとても充実した濃い生活を送っています。一緒にご飯を作ったり、時にはお互いの家に泊まり合ったり、くだらないことで笑い転げたり、一晩中語り合ったり、悲しいときは何も言わずに側にいてくれたり。出身も学部も価値観も違うけれど、お互いを認め合えてかけがえのない関係になれたことは本当に幸せなこと。私の学生生活は友だち無しでは語れません！

保護犬のボランティアの活動

他にもアルバイトやサークル活動などしていますが、私が今一番力を入れて取り組んでいる活動が、保護犬の介助ボランティアです。

そこでは全国から虐待や飼育放棄の被害に遭った保護犬を受け入れ、心身のケアや介助を主に行っているのですが、この活動を通して動物飼育の現実と大変さを知りました。病気やハ

ンデを抱える犬が多く、命の儚さに触れる機会も数多くあり、ただ単に犬が好きというだけでは務まらないのだと感じましたが、同時に活動に対する責任感とやりがいも芽生えました。ハードな活動環境ではありますが、それでもやはり保護犬たちは可愛く、命の尊さを学べ、とても貴重でかけがえのない経験になっています。

今後の目標

現在、私は就職活動に励んでいます。大学で学んだ心理学や「ふくし」の視点を活かして、大好きな長野県で人に寄り添う仕事がしたいと思っています。

学生生活もあと一年。残された時間で社会人になるための準備をすることはもちろんですが、学生というかけがえのない時間も全力で楽しみたいと思っています。



一年の学びを振り返って

健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻1年 後藤心那さん(飯田女子高等学校出身)



大学での一年間を振り返って

日本福祉大学に入学して一年が経ち、学校生活では友達にも恵まれ、充実した日々を送ることができています。大学生になり行動範囲が広がって、友達と愛知県巡りや遠出をしたりと多くの思い出を作りながらとても楽しく過ごしています。

講義は毎日一限から基本、夕方まで入っており、最初の頃は90分授業に慣れず途中で集中力が切れたりすることもありましたが、今では集中して講義を受けることができています。

私が在籍する作業療法学専攻では、みんなが考えたり、わからないことを教え合うことで、より理解を深められるようグループ学習の時間を大切にしています。テスト期間にもグループ学習が役立つと、友達と情報を交換したり、わからないところを共有するなどして一年間勉学に励んできました。私の場合、テストの約1ヶ月前くらいからは夜遅くまで開館している図書館をよく利用していました。一年生の後期に行われた見学実習では、これまでの講義で学んだ、患者さんと関わる

際のポイントや疾患についての知識を活かすことができました。私は急性期リハビリの病院と生活期リハビリの老人保健施設の見学実習を行い、同じリハビリでも施設によって異なることが多くあると知り、将来どんな施設で働きたいかを考える機会にもなりました。

ひとり暮らしでの奮闘

ひとり暮らしで、家族や地元の友達と離れたため、最初の頃はとても寂しかった。電話をたくさんしたり、愛知県に進学した高校の友達と予定を合わせて逢ったりすることで、寂しさを紛らわしていました。

家事も最初の1ヶ月頃までは慣れず、時間がかかってしまい大変でした。テスト期間やアルバイトに疲れた時には、さらに家事を疎かにしてしまう時もあり、洗い物を溜めたり、部屋が散らかっていたりすることはよくありました。

しかし、今では効率良く行うことができるようになりました。私は家事の中で料理が一番好きなので、この一年間の間にも様々な料理を作ったり、毎日お弁当を作り学校に持って行っています。友達が家に泊まりに来ることも多く、

その際には料理を作り、食べてもらうことも楽しみの一つとなっています。

アルバイトは5月からスポーツジムで始めました。アルバイト代は、食費と遊興費などに使い、残りは貯金をしています。アルバイトは多い時には、週に5日入ることもありましたが、平日は毎日講義が夕方まで入っているため、最終講義が終わった後すぐにアルバイト先に向かい、閉店時間まで働き、帰宅しています。テストが近い時は、出来るだけアルバイトを入れないようにして、勉強をする時間をしっかり確保してテスト勉強に励んでいます。

最初の頃は、知ってる人もいない、縁もゆかりも無い土地に一人で来て4年間生活することや、大学生活に不安を抱いていましたが、とても充実した一年間を過ごすことが出来ました。

これからも充実した大学生活を送れるように頑張りたいです。





小澤 梨乃さん

- ① 看護学部看護学科
- ② 東京都市大学塩尻高等学校
- ③ 大学付属病院 看護師

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
自分が興味を持ったことについて追求したり、自ら行動する力が身についたと考えています。高校生の時から行っていた発達障がい児のボランティア活動を大学でも続けたいと思い、ゼミの先生から紹介していただいたボランティアに参加するようになりました。この活動を大学4年間継続することができ、さらに卒業研究でも発達障がい児への看護についてさらに考えを深めることができました。

Q. 大学での思い出は？
4年生時にUIC(イリノイ大学)の Summer Virtual Undergraduate Global Health Nursing Program に参加したことで、韓国や他大学の学生と交流しながらグローバルヘルスについて学ぶことができ、世界的な健康や看護のあり方について学ぶことができてとても貴重な経験になりました。英語は苦手でしたが、このプログラムに参加したいと思い1年生のときから英語の勉強を続けていました。講義や実習と並行しながらの勉強やプログラムへの参加は、時間を確保するのに苦労する場面もありましたが、プログラムの中で実際に英語でコミュニケーションがとれた時には達成感を得ました。大学のグローバルラウンジを活用し英語のコミュニケーション技術をトレーニングでき、プログラムに参加できたことは日本福祉大学だからこそ体験できたことだと思います。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
興味のある分野があれば相談に乗ってくれたり、学ぶ機会を与えてくださる先生方が多くいます。自分が挑戦したいと思っていることや、興味があることは諦めずに、意志を持って取り組んでいけば実現するチャンスがあるのが日本福祉大学の良い所だと思います。高校や大学でも自分の『やってみたい』を大切に頑張ってください。



有賀 駿介さん

- ① 健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻
- ② 長野県赤穂高等学校
- ③ 医療機関 作業療法士

Q. 大学入学前の「ふくし」のイメージは？
福祉は、介護などを必要とする高齢者や障害者のサービスの一つだと思っていました。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
ふくしは、すべての方にある権利で、生きるために必要なサービスを提供すること、また安心して暮らしていくための手段の一つだと思います。講義や実習を通して学ぶ中で、全ての人に人権があり、全ての人が暮らしやすい地域、生活空間を作ること、全ての人が笑顔で生活出来ることがふくしだとこの4年間で考えるようになりました。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
コミュニケーション力です。高校までとは違い、大学4年間では、コミュニケーション力を必要とする講義や機会がたくさんあり、一番成長した部分だと思います。

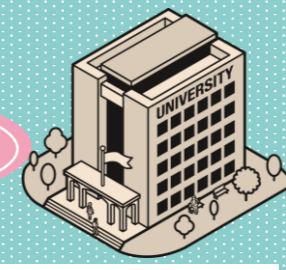
Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
今はふくしについて、実感が湧かなかつたり、難しいイメージがあるかもしれませんが、少しでも興味を持ってもらえれば嬉しいです。また、リハビリテーションの学びに興味のある方は是非、日福も検討してみてください。



奥原 京さん

- ① 健康科学部リハビリテーション学科 介護学専攻
- ② 長野県豊科高等学校
- ③ 社会福祉協議会

新しく始まる愛知県での生活に期待に胸を膨らませ、長野県から旅立った2019年の春。愛知県の生活によりやく慣れた頃におとずれたコロナ禍で、思うような活動が出来ずに戸惑いや苦しい思いを抱えたこともあったのではないのでしょうか。そんな中でも夢を諦めずに走りぬいた4年間の経験や知識は計りしれないほど大きなものだと思われています。日本福祉大学での学び、活動、本当にお疲れさまでした。皆さんの新天地でのご活躍を心よりお祈りいたします！



私たちの日福での4年間

各学部の4年生に聞きました

につづく

名前
① 所属学部・学科・専修
② 出身高校
③ 内定先

松島 有軌さん

- ① スポーツ科学部スポーツ科学科
- ② 長野県飯田高等学校
- ③ 公務員(長野県市町村)

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
自分1人で考えて行動する力です。高校までの生活とは違い、大学は自由です。だからこそ自分の行動に責任が問われるようになります。一人暮らしをする中で自分が間違った行動をしても正してくれる親は近くにいません。また、大学の先生方も高校の時のような距離感ではありません。そういった中で自分の将来の夢を叶えるために、自分の行動に責任を持ち、しっかりと考えてから行動する力が身につけていきました。高校までは先生や親の言うことに従うといった受け身でしたが、一つ一つの行動に責任を持ち、より良い選択を考えて行動するようになっていきました。

Q. ひとり暮らしのエピソードはありますか？
好きな時に友達を家に呼んで遊ぶことができる点が1番楽しいです。次の日が休みの時は朝までゲームに没頭してしまうこともあります。失敗談としては、部屋の照明、テレビ、こたつを全てつけっぱなしにして寝落ちしてしまっただけです。それも1回ではなく数回です(笑)

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
ふくしについて学ぶことは今後の人生においてとても大きなものになると私は思います。自分の目標や夢を叶えるために周りに流されるのではなく、自分を持って行動していきましょう！



市瀬 岳人さん

- ① 経済学部経済学科
- ② 長野県飯田OIDE長姫高等学校
- ③ 公務員(愛知県市町村)

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところ、成長過程だと思うところは？
成長できたと感じるのは精神面です。講義や、ゼミ、インターンシップなどで多くの人と関わる中で成長できたと思います。逆に成長過程だと感じるのは、人に流されてしまうところです。まだまだ、自分の芯を持っていないと感じる場面があります。

Q. 大学での思い出は？
ゼミでの活動は、本当に楽しかったです。特に3年生の時に行った東海市との連携事業ではプロジェクトリーダーを任せてもらい、自分達で一から考え、失敗を繰り返しながらもそれを形にしていけるという貴重な経験をする事ができました。

Q. 今後の目標は？
地域の方々の暮らしを支える、縁の下の力持ちのような存在になれたらと思います。決して目立つような存在ではありませんが、誰かのために日々尽力したいと思います。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
大学での経験は、とても貴重なものになると思います。人との縁であったり、運を大切に、頑張ってください。



櫛原 菜央さん

- ① 健康科学部リハビリテーション学科 介護学専攻
- ② 長野県飯田OIDE長姫高等学校
- ③ 公務員(長野県市町村)

Q. 大学入学前の「ふくし」のイメージは？
高齢者や障害者などの福祉を求めている特定の人に対するものというイメージがありました。福祉といえば介護や福祉施設を思い浮かべることが多かったと思います。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
ふくしとは、高齢者や障害者など特定の人に限らず、生きている人みんなに必要なものだと思います。また、ふくし=しあわせというイメージが定着しました。

Q. 今後の目標は？
学ぶ姿勢を忘れない、常に学び続けていける社会人になりたいと思います。経験を重ねて、ケアマネジャー(介護支援専門員)など他の資格取得にも挑戦してみたいと考えています。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
ふくしを学ぶことで自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、4年間で知識が身につくだけでなく、人として成長できたと感じます。ふくしを学ぶなら日本福祉大学がいいと思います。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
物事を多角的に見られるようになったのと、福祉に対する思いが入学前よりも強くなりました。

Q. 大学での思い出は？
日々の課題やテスト勉強、実習など行わなければいけないことが多かったのですが、友達に支えられて乗り越えることができました。友達の大切さを身に染みて感じました。

Q. 今後の目標は？
地域の方に「相談してよかった」と思ってもらえるような職員になり、地域福祉の推進に貢献していきたいです。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
テストや実習で大変な時もあるかと思いますが、大学で学んだことは絶対に無駄にはならないので諦めずに頑張ってください！

日本福祉大学の目指す「ふくし」は「**ふ**つうに**く**らせる**し**あわせ」の3文字をとったもの。ふくしは高齢者や障がい者など特定の方だけのものではなく、すべての人に関わるものとして学生たちは学びを深めています。今春、卒業する4年生の皆さんは大学生活の4年間でどんな気づきや成長を得たのでしょうか。各学部を代表して10名の方にお話を伺いました。

佐藤 亜美佳さん

- ① 社会福祉学部社会福祉学科医療専修
- ② 長野県岩村田高等学校
- ③ デザイン・写真関連企業

Q. 大学入学前の「ふくし」のイメージは？
先日、引っ越しの準備をしている時にたまたまAO入試で書いたであろう自己PRレポートが出てきました。そこには、「福祉とは、身近な人たちがしあわせだと感じる」と書いてありました。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
4年経った今もそのイメージは変わっていません。身近な人を含め、社会に生きている人々が互いに理解し合い、しあわせだと思える日々を作ることだと思います。大学では、さらに踏み込んで各分野に分かれ、より専門的な法律や制度のことも学びました。確かにその知識を持っていることは役に立ちますが、まずはみんながしあわせだと思える社会や地域を創作していくことだと思います。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
ふくしって何だろうと問いを立てること、ずっと考え続けなくてもいいけど、それを探るのがこの期間(年代)なんじゃないかなと思います。ふくしに関わらず、自分の立てた疑問に向き合ってみてください。あとは、自分のワクワクと真剣に向き合ってみてください！

若尾 幸太郎さん

- ① 社会福祉学部社会福祉学科人間福祉専修
- ② 長野県諏訪二葉高等学校
- ③ 社会福祉協議会



Q. 大学入学前の「ふくし」のイメージは？
中学生のときに福祉委員会に入っていたため、赤い羽根共同募金での活動や、視覚障害、知的障害のある人たちと交流する機会がありました。こうした経験もあり、「ふくし」に対しては、「高齢者や障害者、生活に困窮している人など、社会的に弱い立場に置かれやすい人々を、社会全体で支えていく」というイメージを持っていました。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
「ふくし」は高齢者や障害者などのためだけにあるものではなく、地域に住む私たち全員のためにあるものだと考えるようになりました。隣に住んでいる人の名前と顔も知らないというように、地域とのつながりが希薄になりつつある日本では、誰もが孤立し、困難を抱えることになるかもしれません。そのため、「ふくし」を“自分には関係のない弱者のためにあるものだ”と考えず、我が事として考えることが大切だと学びました。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
コロナ禍での生活が当たり前となり、何かを我慢したりと苦しいこともあったかと思いますが、コロナ禍という苦しい時期を乗り越え、今を生きていることはとてもすごいことだと思います。今後、苦しいことがあったとしても、コロナ禍を乗り越えてきたという自信をもって、自分のペースで一日一日を過ごしていけることを祈っています。



竹内 勇真さん

- ① 健康科学部福祉工学科 建築バリアフリー専修
- ② 長野県諏訪清陵高等学校
- ③ 建築設計事務所



Q. 大学入学前の「ふくし」のイメージは？
これから重要視されていくであろう社会課題の一つであり、高齢者に対する限定的なものであるという認識でした。

Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
上記での認識が狭義的な福祉であり、そのほかにも広義的な福祉が多く存在することを学びました。人それぞれに多くの身体的・精神的なふくしが存在すると感じています。

Q. 「ふくし」のイメージが変わった理由は？
建築との関わりを学ぶことで顕在化されてきたと感じます。建築も多くの連関から成り立ちそれ自体では存在しないものであり、ふくしも同義であることからイメージが変化しました。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
自身の取り組み次第で進む先は必ずと現れてくると思うので、頑張ってください。

神林 未来さん

- ① 教育・心理学部子ども発達学科 保育・幼児教育専修
- ② 長野県伊那北高等学校
- ③ 公務員保育士(愛知県市町村)



Q. 大学4年間で自分自身が成長したと思うところは？
知らない知識があることを認識し、そのことを恥ずかしがるのではなく、知ろうとする努力、質問することの大切さを実感できた点です。大学の講義で知らないことに出会い、実習で様々な人や場面に出会うことで気づかされたと思っています。

Q. ひとり暮らしのエピソードはありますか？
最初のうちは節約や自炊を頑張っていました。4年間通して適度に手を抜く方法を覚えました。ゴミの回収は遅れないようにすることをオススメします。個人的には、ペットボトルの分別・回収が大変でした。

Q. 今後の目標は？
人と関わりながら自分らしさを大切に相手のことも大切にできる人でありたいと思っています。そして、学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。

Q. 日福の後輩やふくしに興味がある高校生へメッセージを。
自分には関係ない、何それ？と思っている人こそ大学でふくしを学んでみてほしいと思います。自分の価値観や視野をさらに広げられるかは自分次第かもしれませんが、興味があることには積極的に挑戦してみてもいいのでは？と思います！